



高齢者の在宅医療



高齢者の在宅医療が
直面する課題を
多角的に理解するために

企画・構成

医療法人実幸会いらはら診療所
在宅医療部長

和田 忠志

Wada Tadashi

在宅患者の圧倒的多数は高齢者である。すなわち、「高齢者の在宅医療」は在宅医療の「本丸」である。国の在宅医療施策も、基本的に高齢者政策といって過言ではない。本特集は、実践の立場から良質な情報を提供したいと考え、「真の臨床医」に筆を執ってもらった。

まず、地域医療のメッカ「佐久総合病院」で、若月俊一氏の理念を体得した北澤彰浩医師が地域医療の観点を述べる。次に、多職種連携で栄養問題に取り組む洪英在医師が、栄養への対応を述べる。また、新潟県の地域医療の拠点「ゆきぐに大和病院(現南魚沼市民病院)」でリハビリテーションと在宅医療の責任者を兼ねる大西康史医師が、在宅リハビリテーションについて述べる。そして、滋賀県で真摯に地域医療に取り組む松井善典医師に、認知症の人と家族対応に関する執筆をお願いした。さらに、名古屋市中で重症者を含めた在宅医療に精力的に取り組む野村秀樹医師に、看取りの問題を述べてもらう。それから、栃木県で在宅医療を深く掘り下げて実践する荒井康之医師に、臨時対応に関する記載をお願いした。最後に、ホームレス支援などに果敢に立ち向かう森亮太医師に、貧困と社会的課題について述べてもらった。

執筆者は若手だが実力者ばかりである。読者は豊かな実践的な記載から多くを学べると信じる。